

<白金標準、AI 株価の不確実性が高まり下値模索に注意・・・>



(出所：オアシス)

WPIC 第2四半期(4月～6月) PGM 需給報告では、2026年の需給バランスが8トンの供給過剰への予測へ前回の9トンの供給不足から変更している。しかし2025年の供給不足が37トンから45トンへ拡大し、地上在庫も64トンから54トンへ減少しており、この数字から供給不足は拡大している。また供給過剰の予測もWPICのリサーチ・ディレクター、エド・スターク氏は、投資家の需要が再び回復するにつれて、下半期には市場が供給不足になると予測しているが、「今年前半に見られた大規模なETFからの12トンの資金流出」を補うには不十分だと述べている。また南アフリカの鉱業生産は7月に前年同月比7.5%減少し、最大のマイナス要因はPGM生産が13.5%減少し、全体の成長に-3.2ポイント寄与していると発表している。またフィッチ・ソリューションズの研究部門BMIは、2026年のプラチナは204000オンス(6.3トン)不足を予測し、またプラチナ価格の平均1オンスあたり1900ドル(以前の2000ドルから減少)に変更するも2028年以降、2100ドル、2029年に2250ドル、2030年に2300ドルに上昇すると予想している。そのため目先の安値は買い場の提供と思え、強気を維持するのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルは下げている。RCIでは短期の上昇が止まり、長期は切り下げている。また指数平滑移動平均線のレンジが縮小しており、下げ渋る値動きが続くと思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,615,000 円(2026 年 9 月 14 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 95,040 円(2026 年 9 月 14 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>